

# 油彩画のマチエール

## 「艶」の正体

油彩画の魅力を画家に尋ねると、「画肌の艶」という答が多いようです。素材本来の美しさが表れているという意味では、艶のある画肌こそ油彩画ならではのマチエールだと言えます。では、油彩画の「艶」は何によってもたらされるのでしょうか。古来より、油彩画は顔料に乾性油と樹脂を混ぜて描かれてきました。それは、現在も基本的に変わっていません。乾性油は亜麻やけしなど植物の種子から搾った油で、空気中の酸素を吸ってゆっくりと乾燥していきます。樹脂は乾性油が乾くまでの間の補強材として用いられ、艶を補う役割を担っています。油彩画の画面が乾燥後もやせず、艶を保持しているのは、乾性油と樹脂という2つの材料の性質がマチエールに大きく関わっているからです。

## 乾性油・樹脂の性質、使用方法

艶という油彩画独自のマチエールを活かすためには、材料の性質をよく知らなければなりません。材料の性質に逆らわない使用方法で描くことが大切になります。以下は、古来より油彩画の艶と濃厚な色彩を生み出すために使われてきた乾性油、樹脂の性質と使用方法です。

### ◎ 乾性油

● **サンシックスンドリンシードオイル、サンシックスンドポピーオイル**  
(日晒し重合油)

日光、水、空気に長時間晒し重合させた乾性油です。粘りがあり、深い色合いと光沢がでます。いずれも乾きは速いけれど、乾燥後リンシードには黄変性があり、ポピーは少ないという違いがあります。

● **スタンドラインシードオイル(加熱重合油)**  
空気を遮断して、250〜300℃で加熱し重合させたオイルです。

粘りがあり、深い色合いと光沢がでます。乾きは遅く、乾燥後の黄変は少ないです。

### ◎ 樹脂

● **ペネシヤンターペンタイン**

ヨーロッパ唐松から採取した樹脂です。粘りがあり、深い色合いと光沢がでます。乾きは遅く、乾燥後若干黄変します。

● **ダンマルガム**

東南アジアのラワン属樹木から採取した樹脂です。ターペンタインで溶いて、ダンマルワニスとして使用します。ダンマルガムとターペンタインの比率は1対2です。ワニスはさらつとしていて、筆伸びはよいです。乾燥は速く、乾燥後の黄変も少ないです。

### ◎ 使用方法

古典的な艶を持った油彩画を描くときは、右記の材料を混ぜ合わせた調合油(メデイウム)をつくりまします。調合油の例として、乾性油(スタンドラインシードオイル)1十樹脂(ダンマルワニス1十ペネシヤンターペンタイン0.2)十揮発性油(ターペンタイン6〜2/容量比)を基本に、描画の進行に合わせて揮発性油の率を変えていきます。具体的には、描きはじめは絵具にターペンタイン6のものを、中途は4、仕上げは2のものを混ぜて使います。ターペンタイン6のもの2のものをつくり、これを1対1で混合すれば4のものが得られます。

紹介したのは、乾性油と樹脂の性質を活かすためのベーシックな調合油のつくり方と使用方法です。艶のあるマチエールをつくりたい方は、一度試してみてください。



サンシックスンドリンシードオイル    サンシックスンドポピーオイル    スタンドラインシードオイル    ペネシヤンターペンタイン

ホルベイン絵具に関する  
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072(985)1223  
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52  
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

**holbein**

ホルベイン絵具